

特別企画 島根から「世界平和構想」発信

対談

桃山学院大学 経営学部教授 全在紋氏



日本の地方都市に、真の韓日友好を実現したいと考えて取り組みを進める企業家がいる。小松昭夫氏（島根県松江市、小松電機産業社長）がその人で、小松社長は島根・鳥取県境中海を拠点に、韓日友好をきっかけとして世界平和を前進させるための一大プロジェクト「ニューワールド地球ネット」モデル事業構想を立案、10年の歳月をかけて練り上げてきた。このたびの金大中大統領の訪日を受けて、韓日両国が「21世紀に向けた新たなパートナーシップ」をめざして歩みはじめた今、まさにタイムリーな構想発表といえる。その小松社長と全在紋・桃山学院大学経営学部教授に、同構想の意義と韓日の未来について語り合ってもらった。

韓日の友好が地球の未来拓く

小松電機産業社長 小松昭夫氏



竹島(独島)を「地球共生・縁むすびの島」に

全 社長が進めてきた「心の首都・松江市市街地再開発構想」。「未来」についてお聞きした。来を拓く研究・教育機関」を設立の4プロジェクトで構成されている。鳥取県境の中海を起点、小松、歴史記念館について、北朝鮮、そして連合軍として参戦した国々も含めた「地球共生・縁むすびの島」とす。これは既成概念を打破できる。この島を中心に、現代の北朝鮮金剛山観光事業「地球共生・縁むすびの島」という構想は賛否両論あると思いが、真剣に検討してみよう。小松 歴史問題の解決は、関係諸国に絶大な経

ジョン・ジェムン 1945年奈良県生まれ。在日2世。横浜市立大学卒業。ソウル大学大学院修士課程、神戸大学大学院博士課程修了。現在、桃山学院大学経営学部、大学院経営学研究所教授。韓国政府の委託を受けて、在日民族教育の現状と未来に関する研究論文を発表。

歴史知って関係は 日本は韓国に技 余曲折を経て、水管理システム「やくも水神」と高速度のシトシャッター「門番」の開発に成功、ビジネスが飛躍的に拡大、今日に至るまで、事業に障害は付きものだが、あきらめないでやり続けることが大切。何かを成し遂げることが、その時代に必要なこと。社長の成功は、在日商人にとつて参考になる点が多いと思う。まず経営者の心構えをお聞きしたい。

東洋の道義文化が大切 人間は歴史の中に学ぶ

小松 先日、提案メンバーの一人、天路経道道を主唱されている柳ハインツト・コンサルティング社長・角田謙之氏より、島根県には、シベリア抑留中1954年に亡くなった山本幡男という偉大な方がおられたことを教わった。生きる意味を考える上で感銘の夢には君たちの姿が多く



韓国赤十字社を訪れ、鄭元植総裁(右)に北朝鮮の食料危機への支援金を手渡す小松社長(98年7月)

長い時間をかけてという考え方もあるが、子孫の問題を残さず、私たちの世代で解決すべきだと思ってい。ペンチャースピリットとは、「自分の代で解決すべき」と考える精神のこと。このプロジェクトは、心理的、経済的に新時代の拓く突破口になることを確信する。全 国連は現在、豆満江に経済特区を作り、中国の労働力、ソ連の天然資源、韓国の技術、北朝鮮の労働力、日本の技術と資本を導入して、開発を成功させ、東北アジアの発展と融

豆満江開発計画とも合致